

■ 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

- 単元株式数 100株

【株式に関する住所変更等のお届出および照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (電話照会先) ☎0120-176-417
- (ホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
大阪証券取引所市場第一部
- 公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL
<<http://www.ichinenhd.co.jp/>>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていた株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

■ 新製品紹介



NX890 レジナスグロス

速乾性 未塗装樹脂専用光沢復活剤

白化・色アセした車やオートバイの未塗装樹脂パーツを新品の様な光沢に復活させるコーティング剤です。速乾性で作業性に優れ、耐久性・対候性は6ヶ月以上の効果があります。



JIP139 ジンクコートF

TXフリー・有規則非該当亜鉛メッキ補修防錆塗料

業界初のTXフリー、トルエン・キシレンを含まないジンクスプレー。作業環境にやさしく性能は従来品と変わりません。亜鉛メッキの補修、機器や設備の防錆に優れた性能を発揮します。

ICHINEN HOLDINGS

For comfortable First Life 人と社会に、ここちよい安全・安心とやさしい環境を創る

イチネンの「1=First」は、
新しい時代の先進(一番に・初めて)を拓くFirstであり、
いつも最高級のサービスや製品をお届けするFirstです。
人と社会に、ここちよい安全・安心とやさしい環境を。
今までも。そして、これからも。



株式会社 イチネンホールディングス

〈東証・大証1部コード:9619〉

〒532-8567 大阪市淀川区西中島四丁目10番6号

TEL. 06-6309-1800 (代表)

株式会社 イチネンホールディングス

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当中間期におけるわが国の経済は、アメリカのサブプライムローン問題に端を発する金融危機の影響を受け景気後退を余儀なくされております。自動車メーカーなどで生産調整が一巡し、明るい兆しが見えつつあるものの、依然として所得や雇用環境は厳しい状況が続いております。

このような中、私どもは「リース事業」「自動車メンテナンス受託事業」「燃料販売事業」「ケミカル事業」「パーキング事業」の5つの事業を柱にした連邦制経営を推進し、経営の安定化と利益の拡大を図ってまいりました。昨年の10月には持株会社体制に移行し、さらに2009年4月1日には社長交替の役員人事を実施し、社内体制の強化と競争力強化を図っています。

当中間期は、この新体制のもと連邦制経営を維持しつつ、グループ一丸となって、「安全・安心」そして「環境」に配慮した付加価値の高い事業とサービスを提供し、企業価値のさらなる向上に努めてまいりました。

事業環境の変化の激しい状況ではありますが、株主のみなさまには、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 黒田 雅史

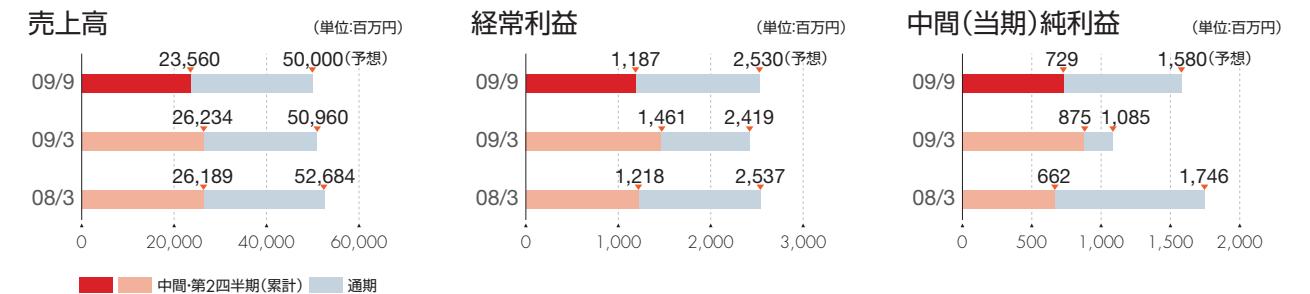
自動車に関する ワンストップサービスの提供と、 ケミカル事業などへの注力により、 事業拡大を図ります。

Q 当中間期の業績について、お聞かせください。

A リース事業や自動車メンテナンス受託事業、パーキング事業は、比較的堅調に推移しましたが、燃料販売事業とケミカル事業で景気減速の影響を受ける結果となりました。残念ながら売上高は前年割れになり、計画も未達成となりましたが、収益面につきましては、グループ一丸となってローコスト経営を徹底した結果、計画通り利益率の向上を果たしております。

代表取締役社長 黒田 雅史
Masashi Kuroda

■ 財務ハイライト



Q 下半期の見通しについて、
お答えください。

A 各事業会社ともに通期目標達成に向け、営業努力を続けております。上半期に不振であったケミカル事業では、新規顧客の開拓に集中。その成果が出はじめており、既存顧客の稼働率改善も見込めることから業績は回復すると考えています。リース事業では、一時期激減したリース満了車の輸出が徐々に好転しており、下半期の目標は達成する見通しです。パーキング事業では賃借物件、自社物件ともに好調に推移しています。特に、7月にオープンした自社物件の心斎橋駐車場は、月を追うごとに利用者が増加。11月には周辺大型商業施設の指定駐車場となり、さらなる売上増

加が期待されます。また、同業他社より100箇所以上の駐車場事業を取得する計画が進んでおり、規模拡大による売上増加を見込んでいます。

Q 中長期的な戦略については、
いかがでしょうか。

A 自動車市場では、ハイブリッド車の売れ行きが好調ですが、そのメンテナンスはメーカーのディーラーが独占している状態です。将来的にはガソリンで走るエンジン車から燃料電池や電気駆動するモーター車への移行は確実で、当社の自動車メンテナンス受託事業や燃料販売事業は大きな打撃を受けることが予測されます。ハイブリッド車の普及が進めば、メンテナンスをディーラー以外にも解放すると思いますが、その時期をただ手をこまねいて待っているわけにもいきません。そこで当社ではリース会社から委託を受け、電気自動車のメンテナンスを行うことになりました。事業分野別では、ケミカル事業やパーキング事業、燃料販売のガソリンカード事業に力を注いでいく方針です。まずケミカル事業は、石油添加剤の海外需要拡大を図ります。世界的に見ると石炭の埋蔵量は豊富で、価格も安いことから、石炭火力発電所は今後も増えていくと思われます。現在、中国の石炭火力発電所で添加剤のテストを実施していますが、本格的な納入が始まれば大幅な需要拡大が見込めます。パーキング事業は、賃借駐車場の拡大や、M&A推進により利用車数を拡大していく方針です。

ガソリンカードは、エクソンモービルとエネオスカードを取扱っておりますが、現在、会員が急激に増えています。この会員組織は、当社にとって将来にわたっての財産です。カード会員さまに対して保険やメンテナンスなどをおすすめし、顧客を囲い込むことによって、自動車関連商品・サービスをワンストップサービスで提供していきたいと考えています。

Q 社長ご就任後、半年を経過しましたが、
現在の感想と今後の方針をお聞かせください。

A 景気が最も悪い時期に就任しましたので、正直、不安な気持ちもありました。しかし、底の状態からは上昇しかないと考え、モチベーションを高め、陣頭指揮をとってまいりました。前期より変わった点は、4月に㈱イチネンを商品別本部制から地域本部制に組織変更したことです。これにより、自動車関連商品・サービスのワンストップサービスを徹底できるようになり、顧客満足度は確実に向上しています。今後の課題はグループの連携強化です。各事業会社は基本的に自主自立の精神が根付き、責任をもって事業を展開しています。反面、各事業会社間や、事業会社とホールディングス間の連携が、若干弱いようにも感じています。管理部門の集約化などで連携強化を図り、一体感のある経営を目指していきたいと考えています。また今後、M&Aによる将来有望な自動車関連企業の買収にも積極的に取り組み、お客さまのニーズに適應する商品・サービスを提供し続けてまいります。

Q 環境保全の取り組みについては、
いかがでしょうか。

A 私どもの経営理念のテーマにもなっている「安全・安心」「環境」にならない、事業活動の中で、暮らしやすさと環境保全の両立に尽力してまいります。たとえば安全・安心の面では、北海道において会員の自動車メンテナンス点検率100%を2008年度実績で達成しました。またリース事業では、お客さまに環境対応車を積極的にご提案しています。さらに、自動車の板金塗装を展開するイチネンBPプラネット(株)では、部品を交換する場合、リサイクル部品の使用に限定しています。ケミカル事業では、工場のボイラーや船舶の燃費を向上する添加剤を積極的に販売しております。

Q 最後に株主さまへの
メッセージをお願いします。

A 当社は、この10月に財務体質の強化と、株式の流動化を目的に、新株を発行いたしました。また、株主さまへの利益還元を経営の最重要課題と考え、数年来続けている配当性向20%を今後も継続させていただきま

株主のみなさまには、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



リース事業



リース事業につきましては、中小口規模の企業のみならず大手企業を含むあらゆる車両需要先企業をターゲットに投資効率を重視したリース契約の増加に努めてまいりました。また、リース契約満了時における解約阻止に注力いたしました。しかし、顧客の節約志向によるリース契約車両の小型化並びに再リース率が高まったことにより、リース契約高は73億49百万円（対前年同期比23.9%減）、リース未経過契約残高は411億60百万円（対前期末比5.5%減）となりました。

損益面では、低年式・走行過多車両の入替えを促進しメンテナンスコストの削減に注力、採算販売の徹底により粗利益率の改善に取り組んでまいりました。しかし、リース契約終了後の車両処分について、引き続き円高やロシアの中古車輸入規制並びに新興国の景気悪化により輸出向け需要が減少し販売単価が思うように回復しませんでした。

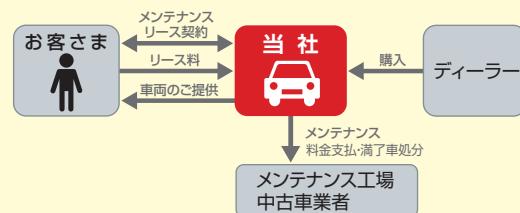
この結果、売上高は、120億28百万円（対前年同期比8.8%減）、営業利益は6億86百万円（対前年同期比26.9%減）となりました。



■ 事業紹介

自動車保有による負担を軽減するオートリースを行っています。リース事業は自動車整備工場を経営する過程で誕生しましたので、高品質なメンテナンスリースに自信があります。顧客のニーズや環境保全の視点を取り入れ、幅広いサービスを提供しています。

■ メンテナンスリースの流れ



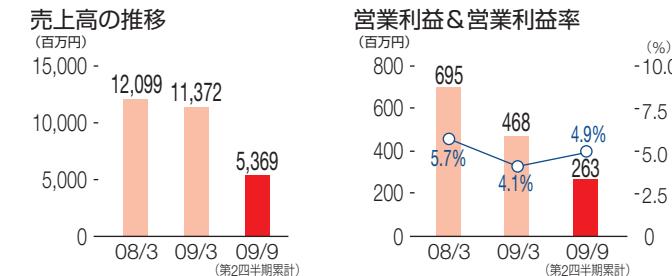
ケミカル事業



ケミカル事業につきましては、工業薬品関連では、主力である国内向けの燃料添加剤、洗浄剤などの販売数量は、主要顧客企業の減産継続の影響を受けて、前年同期比減少となりました。また、化学品関連でも、防水型携帯電話部品表面処理並びにホームセンターなどで販売される個人向け自動車ケミカル製品などは好調でしたが、機械工具商向けケミカル製品では、販売数量が前年同期比減少となりました。

しかし一方で、海運業界の不況も懸念される中、造船・海運関係への燃料添加剤等は、その効果が評価され引き続き順調な伸びを示しております。また、海外向けの燃料添加剤についても、好調な販売を維持しております。

この結果、売上高は53億69百万円（対前年同期比7.1%減）、営業利益は2億63百万円（対前年同期比0.8%減）となりました。

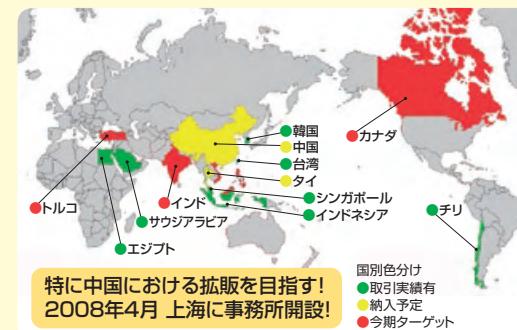


■ 事業紹介

産業機械や自動車のメンテナンスに欠かせないケミカル製品を多彩にラインナップしています。また、各種ボイラーやディーゼルエンジンの省エネに貢献する添加剤など、さまざまなテクノケミカル製品もご提供しています。



■ 世界市場での石炭燃料添加剤等の増加

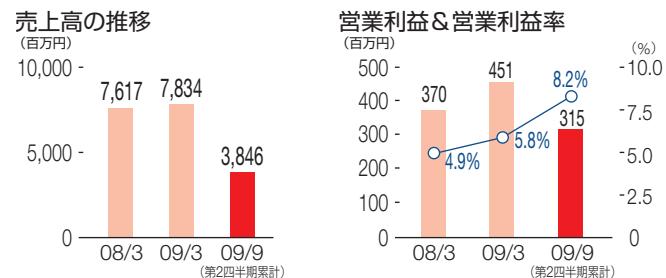


自動車メンテナンス受託事業



自動車メンテナンス受託事業につきましては、メンテナンスコストの増加要因となる低年式・走行過多車両の入替えを促進しメンテナンスコストの抑制に注力し、不採算契約の改善並びに走行距離に応じた料金設定を行い、収益向上に努めてまいりました。また、リース事業同様、契約台数、契約残高の増加に努めてまいりました。この結果、メンテナンス受託契約高は23億98百万円（対前年同期比3.2%増）、メンテナンス未経過契約残高は67億50百万円（対前期末比1.5%増）となりました。損益面では、不採算取引の改善等により粗利益率が改善いたしました。

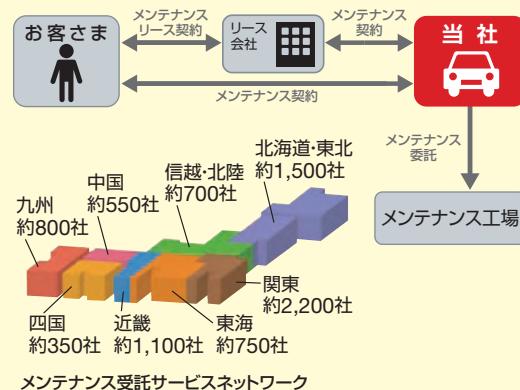
この結果、売上高は38億46百万円（対前年同期比1.3%減）、営業利益は3億15百万円（対前年同期比30.9%増）となりました。



■ 事業紹介

自動車の走行距離に合わせた保守整備や点検情報の集中管理、「動くメンテナンス工場・巡回サービスカー」など、きめ細やかなサービスを実施しています。また、環境に配慮した車体修理事業をイチネンBPプラネットで展開しています。

■ 自動車メンテナンス受託の流れ

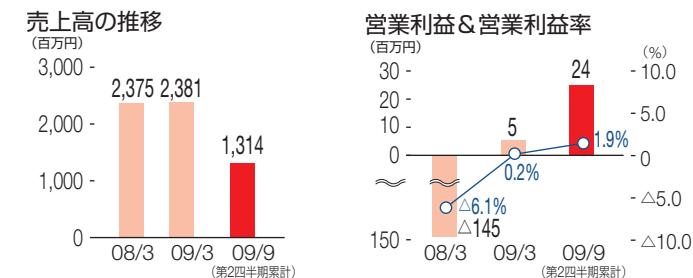


パーキング事業



パーキング事業につきましては、中長期的に安定した収益基盤を築くため、さらなる駐車場数の拡大と引き続き不採算駐車場の採算改善を行い、駐車場個々の収益向上に努めてまいりました。また、長期間安定的に運営可能な駐車場として大阪の中心部に取得してありました駐車場用地について、当第2四半期連結会計期間に全箇所全面稼働となり自社取得物件としては計6箇所となり、2009年9月末現在駐車場管理件数は450件（対前年同期比42件増）、管理台数は11,987台（対前年同期比2,368台増）となりました。損益面では、既存駐車場の収益改善策として、月極契約の募集や駐車料金の見直し等、売上拡大策を講じるとともに、土地賃借料の引下げ交渉によりコストの低減を図ってまいりました。

この結果、売上高は13億14百万円（対前年同期比12.2%増）、営業利益は24百万円（前年同期は31百万円の営業損失）となりました。



■ 事業紹介

土地の有効活用を目的にしたパーキング「One Park」だけでなく、店舗や商業施設、病院に付帯した駐車場にも積極的に取り組み、土地オーナー様やドライバーのみなさまに安心で快適なサービスをご提供しています。



One Park 淡路町

■ パーキング事業の流れ



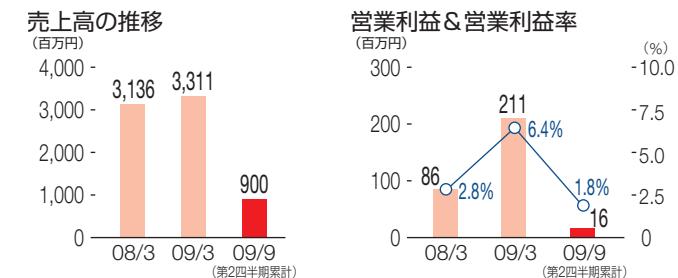
燃料販売事業



燃料販売事業につきましては、主力である自動車用燃料給油カードは、付加価値の高いサービスを顧客に提供し、他社との差別化を図ることにより新規顧客獲得に注力いたしました。しかし、顧客のコスト意識の高まりによる給油方法の多様化から、自動車用燃料給油カードによるガソリン等の販売数量は前年同期比3.1%減となりました。

損益面では、自動車用燃料給油カードにおいて当第2四半期以降、元売業者との仕切り価格引下げ交渉を実施し、原価削減に努めましたが、ガソリンスタンドの安値看板価格（現金給油）の影響を受けたことにより、販売価格への転嫁が思うように進みませんでした。

また、産業用燃料では販売単価の下落並びに販売数量が減少したことにより、売上高は9億円（対前年同期比55.4%減）、営業利益は16百万円（対前年同期比92.5%減）となりました。



■ 事業紹介

全国の各サービスステーションで給油できる「エクソンモービル・コーポレートカード」を販売。イチネンならではのスケールメリットで全国統一価格を実現し、燃料代削減に貢献します。また、燃料代の一括管理により経理事務合理化もサポートします。

■ 燃料販売の流れ



東京で開催された「日経IRフェア2009」に初出展



2009年9月4日・5日に東京ビッグサイトで開催された「日経IRフェア2009」（主催：日本経済新聞社）に出展いたしました。従来は関西地区のみで出展していましたが、株式市場の主役になりつつある個人投資家のみなさまへのアピールを強化するため、今回、初の東京での出展となりました。当日は、特設会場にて当社社長によるプレゼンテーションを実施。約80名の個人投資家のみなさまに事業内容や将来戦略について詳細なご説明をさせていただきました。また、出展ブースでは会社説明会を合計10回開催し、延べ132名の個人投資家のみなさまにご参加いただきました。今後も、IR活動を積極的に推進してまいります。

「OnePark心斎橋」がグランドオープン

2009年7月30日、244台の収容台数を誇る大型駐車場として「OnePark心斎橋」がオープンいたしました。この駐車場は当社グループが自社で土地を取得し、建設した立体駐車場です。「OnePark心斎橋」は、大阪の繁華街・心斎橋地域の中心に位置し、御堂筋、堺筋などの主要道路からのアクセスが良好。心斎橋筋商店街や百貨店、飲食店エリアなどにも近く、利便性の高い駐車場として利用者が増加しています。周辺飲食店舗との提携も拡大しております。今後も地域の店舗との連携を深め、一人でも多くのお客様にご利用いただけるようサービスを強化してまいります。



「OnePark心斎橋」
 駐車台数 244台
 自走式立体駐車場（屋内駐車）
 大阪市中央区東心斎橋1-13

■ 中間連結貸借対照表のポイント (単位：百万円)

POINT 1

リース会計基準の変更に伴い、2009/3期より、ファイナンスリース資産については、流動資産のリース投資資産に、オペレーティングリース資産については、固定資産の賃貸資産に表示しております。(従来は、固定資産のリース資産に表示)

	前中間期 2008年9月30日現在	当中間期 2009年9月30日現在	前期 2009年3月31日現在
【資産の部】			
流動資産	14,831	34,121	38,441
現金及び預金	1,308	3,990	6,926
受取手形及び預掛金	6,946	5,827	5,714
リース・メンテナンス等未収入金	2,198	2,032	1,848
リース投資資産	-	17,574	19,702
その他	4,378	4,696	4,249
固定資産	63,036	41,650	40,999
有形固定資産	50,576	30,339	29,474
リース資産	34,838	-	-
賃貸資産	-	13,948	13,252
土地	12,352	12,332	12,332
その他	3,384	4,058	3,889
無形固定資産	7,071	6,230	6,588
のれん	6,309	5,655	5,982
その他	761	574	606
投資その他の資産	5,388	5,081	4,935
投資有価証券	1,803	1,962	1,746
その他	3,585	3,118	3,189
繰延資産	62	62	53
資産合計	77,930	75,834	79,494
【負債・純資産の部】			
流動負債	37,487	25,814	32,652
支払手形及び買掛金	7,487	6,105	5,771
短期借入金	22,996	13,797	19,671
コマーシャル・ペーパー	-	-	1,000
1年内償還予定の社債	2,720	2,300	2,400
リース・メンテナンス等前受金	2,552	1,761	2,161
その他	1,730	1,850	1,647
固定負債	27,749	36,534	34,031
社債	7,360	6,560	6,360
長期借入金	19,310	28,560	26,211
その他	1,078	1,414	1,460
負債合計	65,237	62,349	66,684
株主資本	12,891	13,488	12,942
資本金	2,139	2,150	2,150
資本剰余金	4,280	3,777	3,777
利益剰余金	7,016	7,565	7,019
自己株式	△ 544	△ 5	△ 5
評価・換算差額等	△ 202	△ 12	△ 139
その他有価証券評価差額金	△ 202	△ 12	△ 139
新株予約権	4	8	7
純資産合計	12,693	13,484	12,810
負債純資産合計	77,930	75,834	79,494

POINT 2

負債は前期末に比べ43億34百万円減少しました。主な要因は、厚めに保有しておりました手元資金にて有利子負債を44億25百万円削減したためであります。この結果、前期末に比べ、総資産は36億60百万円減少し、自己資本比率は、1.7ポイント改善し17.8%となりました。

POINT 3

ローコスト経営を徹底し、販売管理費ならびに営業外費用(資金調達費用)を大幅に抑制いたしました。この結果、前期末に比べ、営業利益率は、0.16ポイント改善し、5.82%となりました。

POINT 4

営業活動によるキャッシュ・フローは、22億61百万円となりました。主な要因は、「税金等調整前四半期(当期)純利益」を11億82百万円計上したこと、「リース投資資産の純減額」20億28百万円及び「法人税等の支払額」△5億21百万円であります。

POINT 5

財務活動によるキャッシュ・フローは、△46億30百万円となりました。主な要因は、「借入金の返済による支出」115億94百万円が「借入れによる収入」80億68百万円を上回ったこと、「コマーシャル・ペーパーの償還による支出」40億円が「コマーシャル・ペーパーの発行による収入」30億円を上回ったことです。

■ 中間連結損益計算書のポイント (単位：百万円)

	前中間期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	当中間期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前期 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
売上高	26,234	23,560	50,960
売上原価	19,635	17,759	38,686
売上総利益	6,598	5,800	12,274
販売費及び一般管理費	4,895	4,427	9,387
営業利益	1,702	1,373	2,886
営業外収益	93	74	166
営業外費用	334	260	633
経常利益	1,461	1,187	2,419
特別利益	38	35	89
特別損失	140	40	748
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,359	1,182	1,760
法人税、住民税及び事業税	564	600	722
法人税等調整額	△ 80	△ 146	△ 47
四半期(当期)純利益	875	729	1,085

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書のポイント (単位：百万円)

	前中間期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	当中間期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前期 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,895	2,261	5,174
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,359	1,182	1,760
減価償却費	7,120	2,628	5,078
売上債権の増減額	△ 501	△ 113	730
リース投資資産の純増減額	-	2,028	3,552
リース資産の純増加額	△ 6,074	-	-
賃貸資産の純増減額	-	△ 2,879	△ 5,358
法人税等の支払額	△ 631	△ 521	△ 848
その他	622	△ 63	260
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 606	△ 587	△ 1,368
有形無形固定資産の取得による支出	△ 623	△ 518	△ 1,297
投資有価証券の取得による支出	△ 203	△ 77	△ 520
その他	221	8	449
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,514	△ 4,630	1,577
社債・借入金の増減額	△ 1,256	△ 4,444	2,054
配当金の支払額	△ 183	△ 182	△ 365
その他	△ 74	△ 2	△ 112
現金及び現金同等物の増減額	△ 224	△ 2,956	5,383
現金及び現金同等物の期首残高	1,533	6,916	1,533
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	1,308	3,960	6,916

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

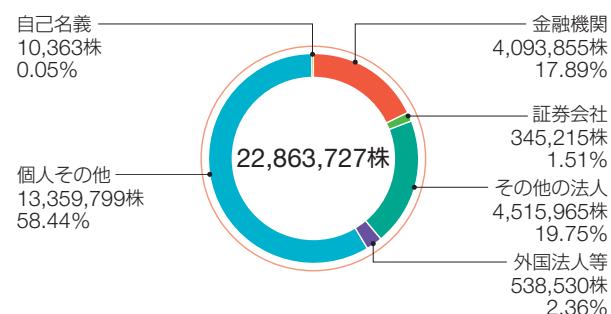
■株式の総数 (2009年9月30日現在)

発行可能株式総数 80,000,000株
 発行済株式の総数 22,863,727株
 株主数 5,932名
 大株主

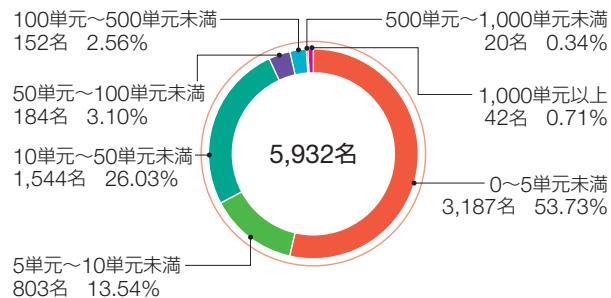
株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
第一燃料株式会社	2,500,000	10.94
住友信託銀行株式会社	820,000	3.59
黒田 雅 史	817,300	3.58
黒田 和 伸	654,200	2.86
黒田 勝 彦	604,700	2.65
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	506,600	2.22
黒田 恭 年	486,016	2.13
黒田 倅 稔	472,000	2.07
黒田 哲 也	442,000	1.93
黒田 雄 彦	426,500	1.87

*出資比率は自己株式(10,363株)を控除して計算しております。

■所有者別株式分布



■所有単元数別株主分布



■会社概要 (2009年10月1日現在)

商 号 株式会社イチネンホールディングス
 (ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD.)
 U R L http://www.ichinenhd.co.jp/
 本店所在地 大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
 創 業 1930年(昭和5年)6月1日
 会 社 設 立 1963年(昭和38年)5月7日
 資 本 金 2,150,900,586円
 従 業 員 数 連結 601名 単体 53名

■取締役及び監査役 (2009年10月1日現在)

代表取締役会長	黒田 倅 稔
代表取締役社長	黒田 雅 史
取締役副社長	黒田 勝 彦
取締役常務執行役員	三村 一 雄
取締役	浅井 和 良
取締役	影山 忠 広
取締役	灰本 栄 三
常勤監査役	奥田 弘 伸
常勤監査役	川上 信 雄
監 査 役	岸 野

■グループ会社

株式会社イチネン
 株式会社タイホーコーザイ
 株式会社イチネンパーキング
 イチネンBPプラネット株式会社
 株式会社セレクト
 野村オートリース株式会社
 アルファオートリース株式会社

■ホームページのご案内

当社のホームページで最新情報を発信しております。
 ぜひ併せてご覧ください。

<http://www.ichinenhd.co.jp/>

イチネンホールディングス

TOPページ



IRサイトの一部



■株主優待情報

割当基準日/3月末日における持株数に対して
 右記の内容のお米券を進呈いたします。



持 株	内 容
100株以上 500株未満	全国共通おこめ券 2kg
500株以上 2,000株未満	全国共通おこめ券 5kg
2,000株以上	全国共通おこめ券 10kg